

小城市が導入を計画する観光アプリの活用イメージ

行政のみならず、
NPOや地域住民も観光情報を投稿



感想や評価点の入力ができる。
将来的には観光客による
一般投稿も可能に



アプリを使った
集客策

佐賀県小城市
の取り組み

行政と市民が一緒につくる観光アプリが 地域の埋もれた魅力を掘り起こす

小城市が『WONDER! NIPPON』アプリ導入で期待できる

3つの効果

- 1 初期運用コストゼロで、地域の魅力が発信できる
- 2 ガイドブックなど既存の観光案内情報を活用でき、最新情報にすぐ更新できる
- 3 地域住民の目線でまちの新たな魅力を掘り起こすことができる

—— 導入作業はどのような体制で進めていくのでしょうか。
アプリに掲載する情報を打ち込む作業は導入主体である市が担うため、そのための人的手当ては必要です。しかし、現在の職員体制では情報の打ち込み作業に市職員を張りつけるのは難しい。そこでNPOや市民団体の力を借りることにしました。幸いなことに、小城市は歴史遺産の管理・運用などで活躍する市民団体が多く存在します。すでにNPO法人つなぎレインガ座と一般社団法人アールフォンテヌという2つの団体から協力を取りつけています。

—— どんな効果を期待しますか。
観光客の流入増加で地元経済の活性化に少しでも効果があれば望ましいです。しかし、それ以上に期待しているのは、情報を発信する市民自身がまちの魅力を再発見すること。その結果、市民の地域への愛着を育てる一助にもなると

報を書き込む主体が市民であるという点です。従来のような行政や観光協会からの一方的な情報発信ではなく、市民目線による情報発信となることで、まちのお店情報や穴場スポットなど、行政では思いつかないような地域の魅力を掘り起こす手段になるのでは、と。さらに、アプリを活用すれば、これまで紙媒体には盛り込めなかった、小さな史跡情報なども発信でき、情報の逐次更新も可能。過去の観光政策の蓄積も活かせる。そうしたアプリが、初期導入・運用

コスト0円で導入できると聞き、導入を決めました。

市民が担う実務作業 役所をあげてバックアップ

—— 小城市が観光アプリの導入を検討するようになった背景を教えてください。
小城市には、弥生時代の農耕集落遺跡や中世鎌倉時代の城址など、貴重な歴史遺産が点在しています。しかし個々の知名度は低く、外から観光客を呼び込めるような観光名所にはなっていません。「どうすれば、これらの資産を市の魅力として発信できるか」というのが、小城市の観光政策の課題となっていました。

市民が主体となる情報発信が 地域への愛着を育てる

地域情報の発信ツールとして昨今、いくつもの観光アプリが開発されている。これを観光政策に活用しようという自治体は多く、観光面で課題を抱えている小城市(小城市)もそのひとつである。現在、地域住民が主体となつてつくる新しいタイプの観光アプリ『WONDER! NIPPON』の本格導入に向けて準備を進めているという。そこで、この新アプリ導入で中心的な役割を担っている同市商工観光課の樋渡氏に、同アプリ導入の背景や期待する効果などについて聞いた。



小城市
産業部商工観光課
商工観光係長
樋渡 理香
ひわたしりか

—— これまでも市では歴史遺産の整備を続けながら、ときに地元の市民団体が主催するイベント会場として提供するなど、さまざまなかたちの活用を後押ししてきました。ただ、活動の規模は小さく、外部への発信力を高めるには、「これらの活動を連携させる基盤が必要だ」という思いがありました。そんなとき、ある市民団体を通じて新しいアプリの存在を知りました。それが『WONDER! NIPPON』です。

—— 導入を決めた理由はなんですか。
いちばんの理由は、アプリに情



【小城市】 ■人口: 45,681人(平成28年10月31日現在) ■世帯数: 16,001世帯(平成28年10月31日現在) ■予算規模: 327億5,517万3,000円(平成28年度当初) ■面積: 95.81 km² ■概要: 佐賀県のほぼ中央にあり、佐賀平野の西端、県庁所在地・佐賀市に隣接。北部に天光山系がそびえ、中央部は肥沃な佐賀平野が開けている。また、南部には農業用排水路のクレーク地帯が縦横に広がり、日本一の干潟・有明海に面している。天光山立自然公園、ムツゴロウ・シオマネキ保護区に代表される、貴重で豊かな自然資源を有している。

九州初の成功モデルをつくりたい

NPOつなぎレングラ

今回の『WONDER! NIPPON』導入にあたって、われわれはマップの制作や、そこに掲載する情報の作成・打ち込みを担当します。「これまでの観光ガイドには載っていないが、ぜひ発信したい」という草の根情報はたくさんあります。A級観光地とはいえない小城市にも、「すばらしい魅力がある」ということを示せるのではないかと期待しています。

小城市は、「市の政策に市民の声を反映させよう」という意識が強い自治体です。そうした影響もあって、市内にはまちづくりに対する熱い想いをもちた市民団体が数多く存在します。

市では総合計画の策定などにあたって、これまでもまちづくり団体などとの協議の場を設定し、ともに政策をつくりあげてきた経緯がありました。そうした環境が基盤となって、今回の『WONDER! NIPPON』導入にあっても、スムーズに協力体制を構築することができたわけです。

「行政と市民が一緒につくる」という斬新なこのアプリを使ってまちづくりを成功させた九州初の事例となることが、いまのわれわれの目標です。このアプリの導入は、小城市が「小さいがキラリと光る存在」に生まれ変わるための第一歩になると期待しています。

くれることも期待しています。——今後の導入スケジュールについて教えてください。

現在のところ、平成29年度事業として導入を進める計画です。ただし、費用が発生しない作業に関しては、すぐにでも始めたいと考えています。実務を担う2団体には、一部の作業を先行して着手し

てもらおう計画です。その過程で、窓口となる商工観光課だけではなく、文化財を管理する文化課をはじめ、企画政策課、総務課など役所をあげてバックアップをしていきます。また、ケーブルテレビやFM放送の市政情報を通じて、観光アプリの存在を市民に周知していきたいと考えています。

支援企業の 視点

アプリを活用した観光振興策は 住民の知恵を活かす時代

——自治体が観光振興策を成功させるポイントはなんですか。

ほかの地域にはない、独自の魅力をいかに発信できるかがポイントになります。といっても、必ずしも第1級の観光名所や名産品の情報を発信するということではありません。地元の人しか知らない希少な情報を欲している観光客が多くいます。そうした情報を発信するには、自治体の力だけでは限界があります。そこで住民の知恵をいかに拾い上げ、発信していくかがカギになります。そこに住む住民こそ、地域の魅力をいちばん理解しているはずだからです。

——観光アプリ『WONDER! NIPPON』の特徴を教えてください。

最大のコンセプトは、「地域の住民や観光客といった利用者自身が情報を書き込む」ということです。また、規模の小さな自治体にも導入してもらえるよう、初期導入・運用コストは0円としているのも特徴です。アプリに書き込む情報の収集や書き込みは、導入する自治体に担っ



B-Prost
代表取締役社長
魚住 憲治
うおずみ けんじ

昭和35年、熊本県生まれ。平成15年12月に株式会社B-Prostを設立し、代表取締役社長に就任。知られざる地域の魅力を掘り起こし、地域創生に貢献したいという志のもと、初期導入・運用費用ゼロの観光アプリを開発し、自治体支援を続けている。

てもらいますが、システム自体のメンテナンスや運用面の改善などは当社が提供します。

こうしたコンセプトが受け入れられ、このアプリに興味をもってくれる自治体は、全国に広がっています。なかには、アプリ導入に向けて地元の人やNPOや大学などの連携を模索する動きも増えてきました。当社ではそうしたまちおこしに意欲的な自治体を全力で支援していきます。一般社団法人Gateway APP Japan (GAJ) に加盟したことで、外国人観光客の利用促進のほか、在日外国人目線による地域の魅力の掘り起こしと情報発信を広げたいと考えています。

問い合わせ先 ☎03-5404-5288 (平日 9:00~17:00 担当: 藤原、田中)

PR